

11 教員組織

進捗状況報告

2. 複数の研究プロジェクトを設定するに関しては、「聖典と今日の課題」「聖餐の理論と実践」「関西におけるキリスト教の文化形成力」を立ち上げている。

4. RCCニューズレターをRCCフォーラムを行うたびに発行した。

5. 研究成果をタイムリー且つスピーディーに発信することとして、過去に『民と神と神々と』『スピリチュアルケアを語る』『暴力を考える』『アメリカの戦争と宗教』『聖書の解釈と正典—開かれた「読み」を目指して』を公刊、2007年度に『キリスト教と平和戦略研究』（仮題）の出版準備に入り、出版社との協議を開始した。

6. 吉岡記念館の中に、RCC共同研究室とRCCセンター長室を設置し、研究プロジェクトの研究拠点、RCCセンター長を中心とした活動拠点として活用している。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

RCCの積極的な展開によって、進捗状況報告に記したように、学内外への発信は着実である。しかしその反面、従来活動を担ってきた中堅教員・職員の負担が飛躍的に増え、「自転車操業化」という問題点が浮き彫りになりつつある。今後、若手を中心に研究員の積極的リクルートを行い、その育成に努めると共に、役割分担などにおいて整備を進める。

学内第三者評価

RCCに参画する教員の研究成果を着実に発表していると認められる。学会や社会からの評価を測ることが難しい面もあるかもしれないが、一層考慮されることを期待する。

事実の列挙にとどまっており、自己点検・評価活動の趣旨からすると記述内容は十分とはいえない。自身が掲げた目標に向けた活動を行っているのか、活動により掲げた目標がどの程度達成されているのか、活動により浮き彫りになった問題点があるのか、といったことを率直に見直し、Plan-Do-Check-Actionのサイクルをまわしていくことが求められる。